オンライン ホームカミングデー開催

今年度は龍谷祭が中止となり、卒業生の皆さまにキャンパスにお越しいただき、学生模擬店や、各種イベントに参加いただくかたちでのホームカミングデーの開催ができませんでした。そこで、11月8日に初の試みとして、オンラインでホームカミングデーを開催しました。

第一部では、海外在住の卒業生から在住者ならではの視点でお話を伺うことができました。

第二部では、10学部の先生方から「龍谷大学各学部の時代を考える」をテーマに講演や事業を紹介いただきました。卒業生にとって、自身の出身学部の先生の話は馴染みがありますが、他学部の先生の話を伺うことは貴重な機会だったと思います。

また、学部と学部同窓会との協力や試みに特色が出て、それぞれに充実した、興味深い企画となりました。

例年のホームカミングデーでは、今の龍谷大学を実際に見ていただき、自身の学生時代と比較して懐かしんだり、母校の発展に驚いたりしていただく機会になっていましたが、今年は、オンライン講座を通して「母校から学び」「母校を知る」機会として有意義な時間を過ごしていただきました。

第一部：世界各国で活躍の卒業生から学ぶ
永松真紀さん（ケニア）88年短期大学部卒
長澤亮平さん（アメリカ）03年文学部卒

第二部：龍谷大学各学部の先生から学ぶ		
文学部	コロナに向かう人文知	越前谷 宏 先生 安藤 徹 先生
経済学部	恩師とオンラインで話そう — 今こそホームカミングデー —	伊達 浩憲 先生 小瀬 一 先生
経営学部	経営学部教員の視点から with コロナの 時代を考える — 教育・企業経営・研究 —	加藤 正浩 先生
法学部	いわゆるコロナ社会における法と政治	本多 滝夫 先生 渡辺 博明 先生
先端理工学部	災害廃棄物に係る ボランティアの活動とコロナ	水原 詞治 先生
社会学部	コロナ後の世界と朝鮮半島 ～日本はどう対処すべきか～	李 相哲 先生
国際学部	グローバルな視点で卒業生のみなさんと 共に考える、コロナ後の新常態	斎藤 文彦 先生
政策学部	変化の時代を生きるための 政策学的思考	只友 景士 先生
短期大学部	コロナ禍に社会福祉は何ができるか?	阪口 春彦 先生
農学部	チョコにまつわる甘くない話	塩尻 かおり 先生 坂梨 健太 先生

第二部　龍谷大学各学部の先生から学ぶ

■文学部

◎越前谷 宏 先生
◎安藤 徹 先生

テーマ：「コロナに向かう人文知」

コロナ禍に翻弄され、その対応に追われる日々の中でほんとうに大事なことは何か、見えにくくなっているかもしれません。

こうした時こそ、一旦立ち止まって、これまでを振り返ってみることが大切です。

私たちの感性や知性を麻痺させかねないほどに世の中に溢れるコロナ禍関連の言葉を、冷静に捉え直すことが必要です。

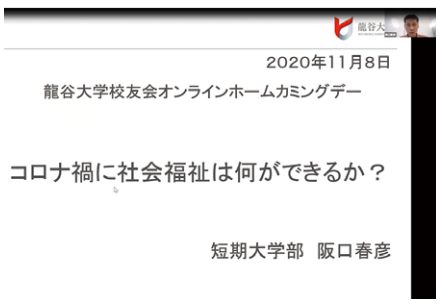
そして、そうした実践こそ、文学部の専門領域である「人文学」が得意とするところです。

今回の対談は、これまでの社会のありようや私たちの生き方、価値観が問われているということを改めて認識する機会となりました。

■短期大学部

◎阪口 春彦 先生

テーマ：「コロナ禍に社会福祉は何ができるか?」



コロナ禍において生み出された高齢者の状況、児童虐待の実態などの生活課題や求められる支援について事例に基づき、国内の問題だけでなく世界的な視野からお話いただきました。また、コロナ禍で通常の実習ができない短期大学部の取り組みとして、日常生活に困窮している学生、経済的ダメージを受けた大学周辺地域の飲食店の応援を含めた「学生・地域応援食事クーポン」を配付する支援を行ったという活動報告もお話いただきました。

■経済学部

◎伊達 浩憲 先生
◎小瀬 一 先生

テーマ：「恩師とオンラインで話そう — 今こそホームカミングデー —」

今年のホームカミングデーはオンラインとのことで、その特性を活かしたプログラムを組むことができないか、同窓会では学部と調整をしました。その結果、先生方に協力いただきオンライン同窓会を開催することになり、当日は10名の先生方とその同窓生で親睦を深めました。

（次面へ続く）

校友会報の発送について

前号で紙媒体での発送もしくはデジタル版配信のご希望をお伺いしました。

発送方法の変更は校友会ホームページからいつでも、ご自由にできますので、お知らせください。

校友会ホームページ
お問い合わせ・連絡先変更
連絡先情報変更受付フォーム

校友会事務局

龍谷ミュージアム

企画展
「まるごと!龍谷ミュージアム — 開館10周年記念 館蔵品展 —」

2021年春、龍谷ミュージアムは開館10周年を迎えます。本展はこれまでのあゆみを振り返るとともに、ミュージアムの館蔵品（一部寄託品も含む）を一堂に公開。国・地域・時代を超えた幅広い文化財から、仏教文化の奥行きを体感していただきます。

また本展では龍谷ミュージアム初の試みとして、展示作品を含む会場内の撮影をOKとするなど、より楽しく仏教文化に親しむことができる仕掛けを予定しています。

八臂観音菩薩坐像
スワート　7～8世紀
龍谷ミュージアム

◆会　期：2021年4月17日（土）～6月13日（日）
◆休館日：月曜日（ただし、5月3日は開館）、5月6日
◆開館時間：10時～17時　※入館は16時30分まで
◆入館料：一般900円
◆問い合わせ：龍谷大学 龍谷ミュージアム
TEL：075-351-2500　https://museum.ryukoku.ac.jp/

次回予告
シリーズ展10「仏教の思想と文化」
特集展示：釈迦信仰と法華経の美術（仮称）
2021年7月10日（土）～8月22日（日）

龍谷ミュージアム
無料ご優待券
期日：2022年3月21日（月・祝）まで
（お一人様1回限り、
同伴者1名含め
無料でご入館いただけます）

切り取ってご使用ください

2021年度 龍谷大学「心の講座」in京都

卒業生優先企画

会場：龍谷大学響都ホール 校友会館（要事前申込み・参加費無料）

5月29日（土）
英月 師（真宗佛光寺派大行寺住職）
「私にかかわる見えないはたらき」
山極 壽一 氏（京都大学名誉教授）
「新型コロナの時代を生き抜くために—人間社会の由来と未来を考える—」

6月19日（土）
久我 儼昭 師（浄土宗西山禅林寺派管長、総本山永観堂禅林寺法主）
「生かされて、今」
小林 エリコ 氏（作家・漫画家）
「それでも　わたしは生きるのだ
～精神障害、うつ病、生活保護を経験した私が伝えたいこと～」

7月31日（土）
田畑 正久 氏（佐藤第二病院院長、元龍谷大学文学部教授）
「コロナ感染症から学ぶ仏教」
森井 大一 先生（日本医師会総合政策研究機構 主任研究員）
「社会はコロナにどう向き合ったか」

9月25日（土）
古谷 正覚 師（聖徳宗第7代管長、法隆寺第130世住職）
「聖徳太子のこころ」
平 雅行 氏（京都先端科学大学特任教授、大阪大学名誉教授）
「危機の時代を生きる—親鸞を素材に—」

10月16日（土）
杉岡 孝紀 氏（龍谷大学文学部教授）
「賢い患者、愚かな患者」
林家 染二 師匠（落語家、公益社団法人上方落語協会理事）
講演「逆境を笑顔に変える落語の世界」
落語「中村仲蔵」　※令和2年度文化庁芸術大賞受賞演目

主催：龍谷大学校友会　龍谷大学校友会各支部　龍谷大学各学部同窓会
共催：読売新聞社

※肩書は2021年2月10日現在で表記しています。
※やむを得ない事情により、講師やテーマが変更されることがあります。
※座席数の制限の中で開催されることがあります。
※各回の内容、申込の開始日や申し込み方法、オンデマンド配信などの情報は校友会のホームページをご確認ください。
https://www.ryukoku.ac.jp/alumni/
（お問い合わせ）TEL：077-533-1241
宮川印刷（株）2021年度「龍谷大学 心の講座」受付係

Ryukoku Univ. Alumni News No. 92

龍谷大学 校友会報

※題字＝星野元豊・第9代学長

〔校友総数　200,000名〕
2021(令和3)年3月15日
第92号
発行＝龍谷大学校友会
編集＝校友会広報部会
https://www.ryukoku.ac.jp

京都市伏見区深草塚本町67
龍　谷　大　学　内
校友会事務局
TEL075-645-2015　FAX075-645-2017

〈連絡先変更のお届けなど〉
龍谷大学校友会HP→

オンラインホームカミングデー・校友短信・2面
龍谷賞・校友会賞受賞者・Who's Who・3面
校友からの便り・経営者登場 歴史実証⑯・4面
校友クローズアップ・校友最前線・5面
海外で活躍する校友・若手校友のお店紹介・6面
全国支部長会・各学部同窓会・支部の活動報告・7面
仏教に学ぶ・校友のお店……8面

また、抽選会や小瀬一先生による龍谷大学の建物にまつわる歴史も紹介していただき、充実した内容に参加者は満足していた様子でした。同窓会では今後もオンラインの良さも利用し、在学生への還元や、同窓生が繋がれる機会創出に努めて参ります。

司会を務めたお二人（左:水嶋理事、右:泉理事）

■経営学部

◎加藤 正浩 先生

テーマ：「経営学部教員の視点からwithコロナの時代を考える―教育・企業経営・研究―」

Withコロナ時代について、大学教育・研究、企業経営のいずれにおいても、一時しのぎのオンライン化、在宅勤務など実は「怠惰」であることを、あたかも「よいこと」であるかのように取り繕っている。事実を見誤っている。「withコロナ」という「怠惰」の言い訳は社会崩壊をもたらすことになる。この「異常事態」を当たり前とせず、コロナ以前の状態に戻さないと危険である、とのお話に、現状を一方面から見るのではなく、その先を考える機会を頂きました。

■法学部

◎本多 滝夫 先生
◎渡辺 博明 先生
☆法学部同窓会理事

テーマ：「いわゆるコロナ社会における法と政治」

法学部の分科会では「いわゆるコロナ社会における法と政治」というテーマのもと、法学部長の本多滝夫先生による「コロナ禍における政府の対応と法治主義」、法学部キャリア主任の渡辺博明先生による「北欧と日本の対応について」と題した報告が行われました。先生方の報告に対して、法学部同窓会からも、会長をはじめ役員が、メイン会場だけでなく、オンライン参加により質疑を行い、双方向的な分科会となりました。

■先端理工学部

◎水原 詞治 先生

テーマ：「災害廃棄物に係るボランティアの活動とコロナ」

災害ボランティアの活動は、災害廃棄物に係る内容が多くあります。

被災された方々は災害廃棄物を分別するのが難しい場合が多く、災害廃棄物の分別等には災害ボランティアが活躍する場面が多いのですが、災害ボランティアに正しいごみ区分が伝わっておらず、適切な廃棄・分別ができていないという実情があります。

さらに今年はコロナ感染防止のため、災害ボランティアの募集範囲にも制限がありました。健康管理の徹底、活動にあたっての衛生管理がさらに必要な中、災害ボランティアの方々に正しい情報伝達をすることの重要性についてお話いただきました。

■社会学部

◎李 相哲 先生
☆荒川 林太郎さん（社会学部同窓会長、93年卒）

テーマ：「コロナ後の世界と朝鮮半島～日本はどう対処すべきか～」

李先生は新聞学がご専門で、とりわけ北東アジアの新聞をはじめとするメディアの歴史と現状に精通されています。近年はテレビ番組に多く出演され、朝鮮半島情勢についてコメントされるなど幅広く活躍されている先生から、日本の将来に大きな影響を与える中国、韓国、北朝鮮の今後について大変興味深いお話を伺うことができました。

■国際学部

◎斎藤 文彦 先生
☆野田 沙良さん（03年卒）

テーマ：「グローバルな視点で卒業生のみなさんと共に考える、コロナ後の新常態」

コロナによって浮き彫りになった問題をどのように考えていくのか。

気候変動、社会分断、格差社会など現在の世界には多くの問題があります。しかしこれらの諸問題は根底でつながっていて、今、私たちはそれに向き合うことを余儀なくされています。例えば、働き方一つを取り上げても、コロナ禍でメンバーシップ型からジョブ型に大きく変化しました。人類史上の大転換期に立っているということを考えさせていただく対談となりました。

■政策学部

◎只友 景士 先生
☆田中 友悟さん（政策学部同窓会長、17年院了）

テーマ：「変化の時代を生きるための政策学的思考」

私たちは、変化激しき時代の荒波に翻弄される小舟に乗っています。この荒波の海を渡る助けとなるのが、政策学的思考です。今回の対談では只友先生の専門である「経済学」の観点から、誰ひとり取り残さずに「ともに生きる」ための政策学的思考と生き方について考えました。社会を良くする「経世家」という概念、日常で実践できる「賢い消費／供給」という社会貢献のかたちなど、これからの社会をより良く生きるためのヒントを共有する時間となりました。

■農学部

◎塩尻 かおり 先生
◎坂梨 健太 先生
☆畑 雄一朗さん（農学部同窓会長、19年卒）

テーマ：「チョコにまつわる甘くない話」

前半は、講師の先生から、チョコレートを共通点に、「チョコにまつわる甘くない話」というテーマでご講演いただきました。

坂梨先生からはカカオ豆の産地であるアフリカ農民の暮らしなど農業経済の視点で、塩尻先生からは虫やカビで一瞬にしてカカオ畑が台無しになる事例をもとに生態学の視点でお話いただきました。

後半の質疑応答の時間では、コロナ禍による研究への影響や大学の様子を答えていただきました。

第一部　世界各国で活躍の卒業生から学ぶ

アメリカ（ニューヨーク在住）
長澤（ながさわ） 亮平（りょうへい）さん
（03年文卒）

テーマ：「ニューヨークでコロナ後の新しい時代を迎える覚悟」

アメリカに住み始めて16年の長澤さんから、コロナ禍で大統領選を迎える状況下でお話をいただきました。

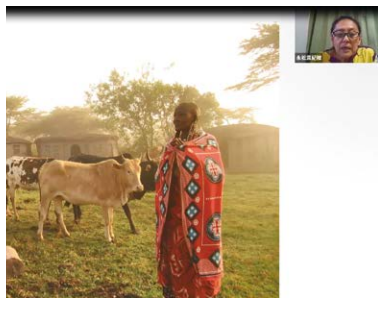
過去にテロ、リーマンショックなどを乗り越えてきたという自負があるNYは、クオモNY州知事の州民に訴える強い姿勢のもと、苦難を乗り越えたら新しく強いNYになるという意識を持てたように感じました。

レインボーのイラストを家の外に貼る、休校中に誕生日を迎えた子どもの家の前をバースデー装飾したクラスメートの車がクラクションを鳴らしてお祝いをする、ソーシャルディスタンスの中でのハロウィンの新しい楽しみ方など、大変な中でもポジティブなところはとてもNYらしいと感じました。

今後は、コロナと一緒に生きていく時代であり、それは新しい基準の中で生きていくこと。

ダーウィンの言葉の、「強いもの、賢いものが生き残るのではなく、変化できるものが生き残る。」はまさにコロナ禍で感じます。

NYで仕事をする大変さは、変化が激しいこと。NYで生活をし、仕事をすることは変化しながらポジティブに生き残り続けることだということを学びました。



ケニア（マサイ村）
永松（ながまつ） 真紀（まき）さん
（88年短大卒）

テーマ：「2020年～ケニアは前代未聞のすべての子供たちの留年が決まりました～」というテーマで予定していましたが、当日は状況が変わっていました。マサイ族の男性と結婚された永松さんは、ケニア発の国際線閉鎖1日前に日本に戻られました。講演の日は、日本からケニアの現状と教育の観点でお話いただきました。

ケニアは医療体制の脆弱さを理解している国なのでコロナ対応は早かったです。

1月から新学期がスタートするケニアでは3月から学校閉鎖、9月に再開しても数か月しか通えない理由から全員留年することが決まった時期もあり、結果、10月から受験学年を含む3学年のみ再開しました。他の学年は旧学年のまま1月にスタートし、4月から新学年になるそうです。教育に関しても政府の発表は二転三転し、国民はなにかと振り回されている状況ですが、それもケニアらしい点です。

ケニアの幼稚園は就学前教育の場でもあり、小学校入学前の予備校のような役割をしています。行っていないと小学校の勉強についていけません。格差社会のため、教育だけが成功できる手段だと思っている人が多いため非常に教育熱心です。

コロナに対して、当初ケニア人は丈夫、高齢者が少ないので爆発的感染者は少ないと考えられていましたが、観光業が多いので失業者が増えて治安の悪化、暴動が心配されています。様々な支援物資が届いているはずですが、どこかにいってしまい、一部の人がいい思いをしているということも現実です。

校友短信

聖徳宗第7代管長　聖徳宗総本山法隆寺
第130世住職
古谷（ふるや） 正覚（しょうかく）さん　（71年文卒）

48年大阪府生まれ。龍谷大学卒業後、聖徳宗庶務部長、法隆寺執事、99年、聖徳宗宗務長、法隆寺執事長を歴任。20年10月22日、聖徳宗第7代管長、聖徳宗総本山法隆寺第130世住職に就任。今年は聖徳太子1400年遠忌にあたり、奈良と東京の国立博物館で特別展が予定されている。

株式会社イートアンドホールディングス取締役 兼
株式会社大阪王将 代表取締役社長
植月（うえつき） 剛（たけし）さん　（95年社会卒）

95年4月、大阪王将食品株式会社（現：株式会社イートアンドホールディングス）に入社。大阪王将を主力とする外食事業にて本部長などを歴任。17年6月専務取締役を経て、20年10月株式会社イートアンドホールディングス 取締役 兼 株式会社大阪王将 代表取締役社長に就任。

第31回 龍谷賞受賞者

龍谷奨励賞

野田 沙良さん
(03年国際文化卒)

認定NPO法人アクセス―共生社会をめざす地球市民の会 事務局長

大学在学中に訪問したフィリピンで小学校に行けない貧困層の子どもたちや女性の状況を知り、企業勤務を経てNPO法人に入職され、学校の建設や奨学金提供などの教育的支援、女性の仕事を創出する活動などに従事されています。また、日本の若者達が海外の現状を知る機会を提供する活動も続けておられます。

慈悲の心を軸に多様性をもった活動の幅は、まさに本学の建学の精神や本学が発信している仏教SDGsの取り組みなど多岐にわたっています。

龍谷特別賞

藤岡 孝教さん
(68年文卒)

浄土真宗本願寺派明導寺前住職、講道館柔道8段、全日本柔道連盟公認形審査員、熊本県柔道協会顧問、人吉農芸学院宗教教誨師、本願寺派布教使、保護司

罪をおかした人々の苦悩に寄りそい、心をこめた教誨活動に従事されています。また、龍谷大学柔道部で心身を鍛錬され、地元の球磨郡柔道協会会長を24年間務められ、柔道の普及発展、青少年の健全育成に尽力されました。

龍谷大学柔道部のコーチを務めた現住職藤岡教顕氏と共に05年から毎年春に龍谷大学女子柔道部の合宿を自坊に受け入れてこられ、18年には全日本学生柔道体重別団体優勝大会において柔道部は日本一に輝きました。

母校への思い、浄土真宗本願寺派の僧侶として地域への貢献度が高いことがうかがえます。

龍谷特別賞

川越 宗一さん
作家

18年に歴史小説『天地に燦たり』で第25回松本清張賞を受賞してデビューされました。歴史小説『熱源』が第162回直木三十五賞を受賞。第二作目の小説での受賞は快挙といえます。

本学文学部史学科に在籍されていた川越さんの直木賞受賞を称えるとともに、今後の創作活動に大いに期待するところです。

第20回 校友会賞受賞者

団体
学友会体育局 日本拳法部
(代表：横井 虎太朗)

チーム一丸となり練習に励み、19年に開催された第64回全日本学生拳法選手権大会において、16年ぶりの優勝を果たし、学生日本一に輝かれました。また、同大会では、最優秀選手賞に冨永一希さんが選ばれ、輝かしい功績を残されました。

個人(柔道部所属)
武田 亮子(経営学部4年)

大学入学後から数々の国際大会に日本代表として出場し、素晴らしい成績を収めてこられました。

19年にはユニバーシアード競技大会にも出場を果たし、個人戦、団体戦ともに、金メダルに輝かれました。また、これまで全ての国際大会で上位入賞を果たし、世界でも通用する実力の高さを証明し、オリンピックも視野に今後も日本を代表する選手として活躍されることが期待されます。

個人(バドミントン部所属)
朝倉 みなみ(20年政策卒)
斉藤 ひかり(20年経営卒)

左:朝倉さん、右:斉藤さん
(全日本バドミントン連盟HPより)

学生の頂点を決める第70回全日本学生バドミントン選手権大会において、女子ダブルスで優勝を果たされました。

また、団体戦でも主力として活躍し、全日本学生バドミントン選手権大会団体戦準優勝(17・18年度)、西日本学生バドミントン選手権大会団体戦優勝(8連覇)、関西学生バドミントンリーグ戦大会優勝(18季連覇)に大きく貢献されました。

個人(吹奏楽部所属)
村上 凜(社会学部4年)

19年のウィーン国立音楽大学国際音楽祭ディヒラーコンクールにおいて、世界各国からトップレベルの学生が出場する中、最高賞となる第1位を受賞されました。

また、第3回バスクラリネットコンクールにおいても第1位を受賞するなど、世界トップレベルの実力を証明されました。

団体で出場した第67回全日本吹奏楽コンクールにおいても幹事長として部をまとめあげ、3年ぶりの金賞に大きく貢献されました。

「ONLY THE NECESSARY」、注ぎ足す文化へ
(必要な分だけ)

大ヒット商品、120mlの日本最小のステンレスボトル「POKETLE」(ポケトル)。このボトルを生み出したのが小林裕介さんです。出張先で発想を得て「これなら勝負できるかもしれない」と、帰りの新幹線で企画書を書きました。

持ち運べる漏れないボトル

当時、仕事で毎週のように東京へ行っていました。ある時、飲み残しのペットボトルを見て「もったいないな」と感じたんです。買っても半分も飲まないうちに忘れて、無駄にしてしまうことも多くありました。その度にコンビニでお茶を買いますが、また同じことの繰り返しです。私みたいな、ラグビーをやっていて体の大きい人間でも飲みきれない。女性はどうなんだろうと、そのことに気づいた日は一日中、街行く人や売り場のボトルサイズをリサーチしました。

〈企画書メモ〉

自分の頭の中で、パズルのピースがバチバチとってはまりました。こういう商品はありそうでなかった。ひょっとしたらすごい市場が眠っているのではないかというワクワク感でその夜は眠れませんでした。

信頼できる人に相談したら「絶対に売れないと思う」と言われました。だったら、なおさらいけるんじゃないか、多くの経営者がこれは売れないと踏んでいるなら、これこそ自分で商品化を実現させるべきだと思いました。

そうして実現したのが「ポケトル」という、120mlという超ミニサイズのステンレスボトルです。

ポケットに納まるサイズ

ポケトルを発表したのが18年9月の「東京インターナショナル・ギフト・ショー」でした

3日間で約20万人が来場する展示会です。日本中の色々なカテゴリーのバイヤーがここで商談を行います。普通だったら「こういう商品を出します」と事前に案内を出すのですが、私は誰にも言わずひっそりとポケトルだけを持っていきました。

この3日間で、ロフトや東急ハンズ、何十店舗もあるチェーン店などへの出荷が決まり、12万本の発注をかけることになりました。この数は想定していた10倍です。

18年12月、ポケトルが店頭に並ぶ

ロフトは、雑貨のトレンドに強いと言われています。そのロフトで主に「少ないのがちょうどいい」という女性たちの支持を得て、こんな数字は見たことがないというほどの売れ方をしました。19年の日経トレンディヒット商品ランキングで、日本で売れた全カテゴリーの中で28位になりました。いまでは累計180万本が出荷されています。

注ぎ足すというライフスタイル

類似品との違いは?

ワンプッシュ式のステンレスボトルがありますが、あれって漏れるし、洗いにくいですよね。消費者が便利だろうと作ったものには盲点があるんです。人は引き算するのに勇気がいりますが、私はあえて引き算を行い、シンプルイズベストにこだわりました。

大手企業のボトルは傷が目立つので、ポケトルのようなマット塗装はやりません。色も売り場で目を引くような明るい色を選びます。私は地味な色にしたら逆に目立つという発想なんです。大手企業と同じことをしたらブランド力の強い方に負けます。

ポケトルのデザイン性と製品に対する思いは、勝てる自信があります。

京都府向日市にある会社の外観

環境に優しい商品であること

ポケトルはエコについても考慮しています。19年に京都で開催されたユネスコ国際会議では、ペットボトルの代わりにポケトルを配り、会場に給水スポットを設けて自分で飲み物を注ぎに行ってもらうかたちにしたら大好評でした。エコの推進に背中を押してもらいました。

20年1~2月のフランスとドイツの展示会では、SDGsや環境問題に意識の高いヨーロッパの人たちによく売れました。ポケトルヨーロッパも立ち上がり、現在では、西欧やアジアの各国で販売しています。

シニア層にも人気
(常備薬を飲む時に)

より多くの人に充実したライフスタイルを送っていただくために

ポケトルは、持つ人がどんなライフスタイルを送るかを意識して設計しています。スペックをより良くするとともに、給水スポットを京都のいろんなところに増やしていきたいですね。マイボトルを定着させることが、いまの目標です。

「OneTaste杯」を主催

校友●Who's Who

(株)DESIGN WORKS ANCIENT
代表取締役社長
小林 裕介(こばやし ゆうすけ)さん
(02年文卒)

プロフィール
78年京都生まれ。京都成章高校にてラグビーをはじめ、龍谷大学でも情熱を燃やす。02年文学部真宗学科卒業後、大手自動車ディーラーに就職。貿易商社2社を経て10年5月に独立、㈱One Tasteを設立。3年前に起業した㈱DESIGN WORKS ANCIENTで商品開発したポケトルが大ヒット。行列のできるお店「ラーメンムギュ」の代表も務める。少年ラグビー大会OneTaste杯主催。

学生時代の創作経験が今の仕事に活かされています

校友からの便り

イラストレーター
山中　玲奈（やまなか れな）さん
（04年経済卒）

人物やシーンを軽妙に描くことが得意なイラストレーターの山中さん。雑誌「an・an」などの女性誌でのイラストレーションをはじめ、広告や公共施設の壁画まで、幅広く活動されています。

大学では広告研究会に所属し、後に「adman（アドマン）」というサークルを設立しました。

このサークルでは、学内・学外の実際に活動している学生ベンチャーやバンドをクライアントとし、広報ツールなどを作成しました。チラシやステッカーなどがメインでしたが、クライアントの声をヒアリングし、どのようなお客様がその場に足を運んでいるか、興味を示しているのかを調査した上で作成に取りかかれたことは実のある経験となりました。

当時そのような実践的な活動をしているサークルは少なかったため「adman」を通して、学外の人間関係を育むとともに議論したり、視野を広げられた時間は貴重な財産となりました。また、Adobe Illustrator やPhotoshop を操作することが不可欠であったため独学で覚え、動画制作も見様見真似で行っていたのでデジタルツールへの知識や発想が培われた期間であったと思います。

サークル活動の他に龍谷祭と学術文化祭の実行委員会に携わり、中でも一回生の頃、龍谷祭実行委員の広報部で「煌（きらめき）」というロゴが採用されたのは嬉しかった思い出のひとつです。自分の作成したロゴを看板やパンフレットで見ることができた喜びは今につながる成功体験の一つとなりました。

龍谷祭実行委員で制作中

龍谷祭で採用されたロゴ

卒業式（山中さんは写真右）

卒業後は、大手広告制作会社へ入社。その後出版社と印刷会社に転職し、フリーランスのイラストレーターとして活動をはじめ、6年目になります。

母が美術教師、父が広告代理店に勤めていたので、芸術と広告の中間あたりが居心地良く、イメージもつきやすかったので自然と今の職になりました。

イラストレーターとして記事や商品を後押しできたと思ったとき、中でも自分の好みや特性を活かしきれたときはやりがいを感じます。

学生時代の活動や経験、出会った方々からの刺激が現在の自分の糧となっています。

これまで仕事の方に邁進してきましたが、今後はさらに創作活動へ力を入れていき、発表の場も増やしていけたらと思います。

現在の作品

お客さまと従業員、地域のために何ができるかを考え続ける

経営者登場

矢木　健太郎（やぎ けんたろう）さん
（96年経営卒）

イオンスーパーセンター（株）代表取締役社長

地域の皆さまと共に、より豊かな未来を創造し続けます

プロフィール
兵庫県神戸市出身。96年経営学部卒業、ジャスコ㈱（現イオン㈱）入社。04年同社マックスバリュ矢本店（宮城県）店長、07年塩釜店（宮城県）店長。12年イオンリテール㈱エリア強化対策チームリーダー。13年同社イオン鎌ヶ谷店（千葉県）店長。15年同社ストアオペレーション本部プロジェクトリーダー。18年同社静岡事業部長。19年イオンスーパーセンター㈱代表取締役社長に就任。

05年11月にイオン㈱より分社したイオンスーパーセンターは、食品から衣料品まですべてが揃うお店で、東北5県に22店舗あります。従業員数は3,547人です。

混声合唱団ラポールに真剣に取り組んだ4年間

学生時代は、経営学部の本岡昭良先生のゼミでマーケティングを学びました。お客さまと一番に接する小売業に興味があり、卒論ではダイエーや西友、ジャスコなどのプライベートブランドについて調査しました。

部活動は、混声合唱団ラポールでした。音楽の経験がなく軽い気持ちで入部。結果的に4年間真剣に取り組むことになりました。1回生のときに出場した合唱コンクールで、銅賞を受賞。金賞が取れるだろうという雰囲気でしたので、とても悔しい思いをしました。

中途半端にやって後悔するよりも、真剣にやって失敗したほうがよっぽどいいと思いました。3回生で金賞を取ったときの感動はいまだに忘れることができません。

ジャスコに就職

ジャスコ（現イオン）の年功序列や男女の差別もなく、実力主義の社風に魅力を感じ入社しました。最初は岐阜に勤務し、その後東海エリア、東北、関東と、異動し一昨年に現職につきました。店舗勤務のときも社長になってからも、学生時代に学んだマーケティングや財務はとても役に立っています。

お客さまの「ありがとう」

東日本大震災直後、応援で陸前高田の仮設住宅に移動販売車で訪れたとき、大変な思いをしておられるお客さまから「ありがとう」ということばを頂きました。そのときに小売りに携わる仕事ができて本当に良かったと感じました。10年ぶりに陸前高田に行った際、私が運転した移動販売車が今も活躍しているのを見て、当時の思いが蘇ってきます。私たち小売業は、お客さまと従業員、地域の方々のために何ができるかを常に考え続けることが使命だと思います。

コロナ禍では

学校が急遽休みになり、給食用のキャベツが余り、困っているというお話を農家の方から伺い、何かお手伝いできないかと私たちのお店で販売することにしました。そのことがきっかけで行政との取り組みにもつながりました。お客さまにも、農家の方にも喜んでいただくことができ、地域への貢献が少しでもできたのではないかと感じています。

また、東京の料亭などに流れていた東北の商品が、休業などにより、地元で売られるようになりました。東北の商品でも意外と地元で知られていない価値ある商品もたくさんあり、それらを知ってもらう機会ができたのはコロナ禍で良かった点かもしれません。

東北のお客さまと共に

私は経営に携わってまだ1年半で、まだまだ勉強中ですが、自分自身が成長する事が、会社を成長させることにつながるのだと思います。

ある新聞の記事で、レンゴー㈱の大坪清会長が「情のない経営は評価に値せず」と言っておられました。

「奇跡の醤（ひしお）」は、奇跡的に見つかった震災前のもろみを培養して復活した醤油です。東北の逸品の一つです。オンラインショッピングで購入できます。

地元の高校生と共同開発した「南相馬のホッキ飯弁当」。イオングループ257店舗で販売。

シリーズ 龍谷大学の歴史実証⑯

龍谷大学のチャイム今昔

校友会副会長　小川　信正

龍谷大学がまだ大宮学舎に文学部だけだった頃、チャイムはなく、授業の始業と終業時の合図は、重要文化財の一つとなっている守衛所の横の高い柱にしつらえられた鐘を、守衛さんがカランコロンとひもを揺すって鳴らしていました。

そのカランコロンの響きは、本館に向かって一礼して正門をくぐる学生達とも、また大宮学舎がもたらすたたずまいとも良くマッチして、独特の本学らしさを醸し出していました。

その後本学では、深草学舎を60年（昭和35年）に開学し、始業、終業の合図を何にするかの必要に迫られ、当時、チャイムは既製品しかなく、どこの学校でも採用していた「ウェストミンスターの鐘」のメロディのチャイムを採用しました。

また69年（昭和44年）頃から、本学も同じく大学紛争に突入し、心の荒廃を招き、深草砂漠とも言われた状況となり、それを打破すべく、大学の主体性と独自性が強く求められました。

そんな中、79年（昭和54年）には赤レンガの紫英館が完成すると、画期的な長期計画を作成し大きく総合大学として改革の一歩を踏み出し、現在の本学発展の礎を構築しました。

そんな折、龍谷大学の独自性を議論する中、チャイムが話題に上がり、「現在のチャイムのメロディは、元々はキリスト教会から生まれたものであり、やはり本学にふさわしいチャイムにすべきではないか」、「建学の精神の高揚にもなるのではないか」との宗教部からの発議にもとづき、種々議論を重ねた結果、仏教讃歌の一つである「四弘誓願」のメロディが採用されました。

チャイムの制作に当たっては、音楽の専門の先生とも相談し、暗いイメージを払拭したチャイムにふさわしい編曲にも心が配られ、本学のオリジナルのチャイムが完成しました。

このチャイムは、本学の建学の精神の象徴として親しまれ、大宮、深草、瀬田の三学舎に於いて、「四弘誓願」のチャイムが流され現在に至っています。

大宮学舎には、チャイムにバトンタッチした今も、往時を偲ぶ鐘として、重要文化財の建物群とも共生して今も本学を静かに見守ってくれています。

鐘は守衛所横の高い柱の上

校友クローズアップ

「ピアノ売ってちょ～だ～い」と言えば タケモトピアノのCMとピンとくる人は多いはず…

そのCMを手掛けたプロデューサーは龍谷大学卒業生だったのです

㈱パラサング　代表取締役
山本 祥生（やまもと よしお）さん
（84年法卒）

タケモトピアノのCM

タケモトピアノCMの誕生

タケモトピアノは、日本の家庭に眠っている使わなくなったピアノを海外の必要とされている地域、主に東ヨーロッパを中心に、昨今では中東、中国、インドに綺麗にリメイクして販売する会社です。

24年前、その事業自体が珍しく、あまり世間に知られていませんでした。

新聞広告やチラシなども全く反応がなく、最後の手段でテレビCMをやることに。

「商品を買ってください」が当たり前の中、「ピアノを売ってください」というメッセージはテレビ局でも理解されず困りましたが、タケモトピアノの社長のCMに対するリクエストはただ一つ、「子供が振り向くCMを創って欲しい」ということでした。

CMのこだわりは？

子供たちが大好きな「歌って踊るCM」にと方針を定め、「ちょっとへんてこなフレーズ」そして、ビジュアル的には見たことのない「奇妙な世界」、音響研究家などのアドバイスを受けながら、最初にどんな音を入れると子供が振り向くかなどの試行錯誤を重ねました。

「パカッ！」とピアノの蓋が開く音から始まり、猫の「にゃー」という鳴き声、イントロ、CMソングへと続き、最後に決め台詞、財津一郎さんの「ピアノ売ってちょ～だ～い」という流れになりました。

CMソングは谷本奈利紘さん、振り付けは香瑠鼓さんに依頼。セットもピアノ鍵盤を舞台いっぱいに再現し、CMソングは、何度もやり直して「子供たちが振り向く音」に仕上げました。登場する猫も貴重なオスの三毛猫を探し出し、その撮影は20時間に及びました。

このCMの影響は？

「タケモトピアノのCMが流れると赤ちゃんが泣き止む」というわさが流れ始め、人気番組「探偵ナイトスクープ」に取り上げられました。

その後、タケモトピアノには様々なメディアから取材が殺到し、24年経った今でも年に数回から数十回の取材があります。

発売されたCMのCD／DVDは、オリコンヒットチャートベスト10入りし、おもちゃメーカーからは、CMソング入り赤ちゃん玩具も販売されるなど、CM好感度でも1位にランクされました。

タケモトピアノは現在も輸出国をさらに拡大するなど好調を持続されており、私も「タケモトピアノCM」を制作したプロデューサーとしてテレビ番組に呼ばれ、他のスポンサーから「タケモトピアノみたいなCMを制作してほしい」などの依頼を沢山いただきました。大変、素晴らしいめぐりあわせで私の人生にとっても一つの大切な仕事になりました。

現在の仕事のきっかけは？

学生時代に京都の劇団で脚本を書いていました。新卒で放送作家として企画会社に入社し、それからずっと台本を書いています。龍谷大学、京都で過ごした経験が今の仕事につながっています。好きなことをやり続けていたら、仕事になっていたので、あまり仕事とプライベートの境はありません。

今後の取り組みは？

阪神大震災を自宅の神戸市東灘区で経験、その時、龍谷大学で学んだ親鸞聖人の教え「何のために生まれてきたのか」を自問し、映像を通じて社会に貢献できることをやりたいと思うようになりました。11年東日本大震災の時にはアントニオ猪木さん、蝶野正洋さんらプロレスラーの方々にお願いして被災地に水2トンと新品下着などを届け、その模様をSNS動画で拡散。19年には、フィリピンでのボランティア水道事業の実話をもとにした映画「セカイイチオイシイ水～マロンパティの涙」を製作、全国の劇場で公開しました。

これからも自分の好きな映像製作を通して、日々の生活に感謝し、楽しみ、世の中の人々と関わっていければと思います。

～合掌

映画撮影の様子

被災地での支援活動に参加

校友最前線

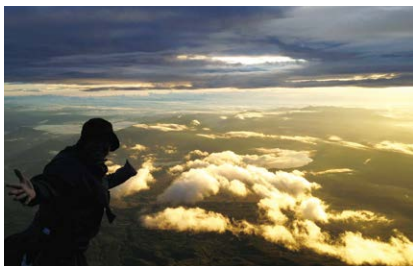
(株)ciokay
代表取締役社長
森 健太（もり けんた）さん
（16年社会卒）

北海道浦幌町の花「ハマナス」で持続可能な地域づくりへ挑戦

地域おこし協力隊として北海道に移住

新卒で地域おこし協力隊制度を活用し北海道に移住、2年目で北の大地で化粧品販売会社を起業しました。

学生時代は、富士山で九死に一生の経験をしたことから、「人とつながることが支えになる」ということを知り、日本全国山奥の集落から離島まで様々なところを巡りました。そこで気づいたのは限界集落と言われる場所でも、そこに暮らす人がいて、自分たちの営みを作っているということです。地方を巡る中で大きな学びを得ました。


大学1回生の時に登った富士山山頂にて

4回生の時に偶然訪れた北海道十勝郡浦幌町は、全国メディア等では名前を耳にしたこともなかった場所ですが、十勝ならではの豊富な自然、そして地域の子どもたちを未来につなげていく「うらほろスタイル」というまちづくりの取り組みを地域住民の方々が10年以上続けている場所でした。その住民の方々からお誘いをいただき、地域おこし協力隊として大学卒業後、移住することになりました。

移住後は、「うらほろスタイル」のメンバーとして、高校がなくなってしまった浦幌町において、地域への愛着や誇りを育んだ子どもたちが戻ってくることができる雇用の受け皿や、働き方の多様性を作り出すことを目標にした事業を担当しました。そこで出会ったのが「ハマナス」です。

ハマナスで地域活性化、化粧品を作る

「ハマナス」は北日本を中心に自生する日本原種のバラで、北海道・そして浦幌町の花として指定されています。毎年、地元の中学3年生が浦幌町に対して地域活性化案発表会を行っており、その中で「町の花に指定されているハマナスを活用して、浦幌町を活性化したい」というアイデアが多く出ていました。そこで、行政機関や地域住民の方々が協働し、ハマナスの栽培そして商品開発を行い、私はその担当として仕事をしていました。

その取り組みの中で、数多くの地域の方々の支えをいただき、17年株式会社ciokay（チオカイは、アイヌ語で「私たち」という意味）を創業。18年に浦幌町で栽培するハマナスを主原料にしたオーガニックスキンケアブランド「rosa rugosa ― ロサ・ルゴサ」の販売を開始しています。

今後は、化粧品のみに留まらず、事業拡大を行いながら人口4,500人に満たない北海道の小さな田舎町で新たな仕事を生み出していきたいと考えています。

地域資源を子どもたちのチカラで産業化している点など評価され、
2020年度ソーシャルプロダクツ賞受賞

ハマナスは日本原種のバラ
英名で“Japanese Rose”と呼ばれる

龍谷大学校友会
公式SNS

SNSを通じて色々な情報を発信していきますので、ぜひご登録をお願いします。

Facebook
Instagram
Twitter
LINE

文化背景を理解し、相手のことをよく知って「頼れる日本人」へ

海外で活躍する校友

水谷（みずたに） 誠也（せいや） さん
（05年国際文化卒）
鈴与株式会社
タイ・バンコク勤務

プロフィール
静岡県浜松市出身。05年国際文化学部卒業、鈴与株式会社入社。09年から11年ベトナム・ハノイ勤務。16年から現在までタイ・バンコク勤務。鈴与タイランド・フォワーディング事業部のGeneral Managerとして国際輸送業務のオペレーション統括に従事。

職場の仲間と駅伝大会に出場

国際協力について学ぶ

学生時代は斎藤文彦先生のゼミで国際協力について学ぶ傍ら、オーストラリア留学を経験しました。現地の高校での日本語教師アシスタントや教会での通訳ボランティアを通して、常に海外と繋がっている仕事に就きたいと思うようになりました。

特に国際社会を陰で支える縁の下の力持ちである物流業に魅力を感じ、地元静岡の鈴与株式会社に入社しました。ベトナム駐在、東京勤務を経て、現在海外2か国目のタイに勤務しています。

日本人は自分ひとり

鈴与タイランド・バンコク本社では、日系企業の輸出入営業窓口、オペレーション統括が主要職務です。タイ人80人以上の部隊で月間2,000件以上の通関・船積業務を手配し、直轄する日本人は自分ひとりです。

日々の実務をどのようにタイ人に任せ、身につけさせ、タイ人主体で回していく環境を築き上げられるかを常に考えなくてはなりません。

学生時代の卒業論文のテーマ「人間開発（＝人々の可能性を開花させ、主体的・生産的に歩みを進めていけるような環境を創出すること）」の考え方にも通ずるものがあると感じています。

休日に娘と

日系企業駐在員として

文化背景の異なる海外の地で働くにあたっては、まずは相手のことを良く知ることが円滑に物事を進める第一歩と考えています。例えばタイでは、親や教師に逆らってはいけない、目上の人に意見してはいけない、との教えを受けることが一般的と言われていますので、業務ミーティングで、メンバーに発言を促しても大した発言はしませんが、個別にヒアリングを行うと本音が出てきます。

日系企業の駐在員として単純に日本式のやり方を押し付けるのではなく、相手の文化背景を理解した上で意思伝達を行うことで得られる成果は変わってきます。そのため、様々な職層・年齢の職員の声をなるべく満遍なく聴くようにしています。また普段は英語でやり取りしていますが、重要な部分だけはカタコトでも「こうしたい、これだけはやってほしい」とタイ語で伝え、歩み寄る、現地に溶け込む姿勢を見せることも常に心掛けています。

ゼミのフィールドワークでインドシナ難民の団体を訪ねた際に、「知らないことからは偏見が生まれる」とのコメントをいただいたことを今でも良く覚えています。海外で働いているとそれを痛感することが多く、相手のことを知り同時に自分のことも知ってもらうことが肝要となります。

将来どこの国に赴任したとしてもこの気持ちを持ち続け、「頼れる日本人」を目指していきます。

若手校友のお店紹介

校友会ホームページ「校友タウン情報」に掲載の若手校友のお店を紹介します。

株式会社アカイノロシ「Laughter」

2018年創業

矢野（やの） 龍平（りゅうへい） さん（19年政策卒）
深尾昌峰ゼミ

〒602-8498　京都市上京区西熊町289
（市バス「乾隆校前」下車、徒歩5分）
10時～19時　不定休　TEL 075-366-8870

左:矢野龍平さん、右:三輪浩朔さん

タイ北部の元麻薬地帯で作られている上質で希少なコーヒー豆に生産から関わり、輸入、焙煎、販売までを一貫して行うことによって、買い手にその魅力やストーリー溢れる商品を提供しています。20年10月には西陣にスペシャルティコーヒー専門の自家焙煎店をオープンしました。

●ドリップコーヒー（イートイン450円、テイクアウト400円～）
●各種コーヒー豆100g700円～

※ブレンドやシングルオリジンの各種コーヒー豆やドリップバッグ、ギフト等もご用意しています。オンラインショップからもお買い求めいただけます。
https://akhainoroshi.com

3TREE BREWERY すりーつりーぶるわりー

2020年創業

森（もり） 凌平（りょうへい） さん（16年経済卒）
アカペラサークルmix-voice

〒567-0829　大阪府茨木市双葉町3-19
（阪急茨木市駅より徒歩3分）
平日:15時～22時　土日祝:14時～22時

写真:茨木ジャーナル提供

仕込んだビールの
発酵具合をチェック

北海道でビール醸造を学び、茨木で初のクラフトビール醸造所を立ち上げました。店舗1階でビールを醸造して、2階の立ち飲みスペースにてこだわりのクラフトビールと共に自家製燻製や牛すじ煮込みを味わえます。4種類のビールは無くなり次第違う種類を提供しています。

●ビールは4種を樽替わりで提供800円～
●フード　燻製うずら300円
国産牛のすじ煮400円　など

株式会社革靴をはいた猫「革靴をはいた猫」

2017年3月創業

魚見（うおみ） 航大（こうた） さん（17年政策卒）阿部大輔ゼミ、
チーム・ノーマライゼーション

〒604-0941　京都市中京区亀屋町370-1 サンルミ御池1F
（京都市営地下鉄「京都市役所前駅」 9番出口すぐ、京阪本線「三条駅」徒歩10分）
10時～19時　TEL 090-8387-8143

京都で靴磨きと靴修理をお望みの方は、御池通の「革靴をはいた猫」にお越しください。一足一足、こだわりのお手入れをいたします。出張・訪問靴磨きにも対応しています。どうぞお気軽にご相談ください。

①**ベーシックコース（1,100円）**　靴全体の汚れを落とした後、補色と栄養補給を行い自然なツヤ感に仕上げます。
②**シャインコース（1,650円）**　靴全体の汚れを落とし、補色や栄養補給を行ったのち、ワックス・コーティングでつま先に光沢を持たせた仕上げを行います。
③**トータルケア（2,300円）**　靴ひもを外し、コバや靴底、内側までケア致します。靴に溜まった疲れや汚れを全てリフレッシュするフルメンテナンスです。
④**ハイシャイン（3,000円）**　革靴をはいた猫が提供する最高の輝きをご堪能ください。もちろんケアも最上級です。足元を見下ろすと、自然と笑みがこぼれます。

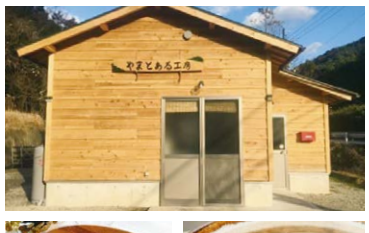
株式会社 RE-SOCIAL「やまとある工房」

2019年11月29日（いい肉の日）創業

笠井（かさい） 大輝（たいき） さん（20年政策卒）
深尾昌峰ゼミ

〒619-1301　京都府相楽郡笠置町有市西狭間24番地
（車でお越しください）
9時～17時　不定休　TEL 080-6101-6617

左:江口和さん、中:笠井大輝さん、右:山本海都さん



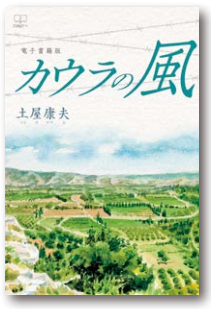
獣害対策による捕獲後、約9割の命が廃棄されているという現状を打破し、大切な命を次世代へとつなぐため、鹿肉の捕獲から処理・販売までを行っています。弊社の食肉処理施設「やまとある工房」には「山とともにある」という意味を込めています。

●焼肉用鹿肉（200g、1,300円）　●しゃぶしゃぶ用鹿肉（150g、825円）
●鹿肉ミンチ（300g、900円）　●鹿肉ステーキ（180g、1,350円）

※その他、ブロック肉や飲食店様向け商品もご用意しております。徹底された血抜き・素早い処理・丁寧なトリミングにこだわっているため、従来のイメージとは異なる旨みの詰まった柔らかい肉質を実現しています。

校友の著書

『行列のできる児童相談所―子ども虐待を人任せにしない社会と行動のために』
井上景（05年社会院了）
四六判 304頁
北大路書房 2,300円+税
19年11月5日発行



『カウラの風』【電子書籍・Kindle版】
土屋康夫（74年経済卒）
256頁
22世紀アート 800円+税
20年7月6日配信

『人は悪魔に熱狂する―悪と欲望の行動経済学』
松本健太郎（07年法卒）
新書判 336頁
毎日新聞出版 1,200円+税
20年7月11日 発行

『楽に生きる』
大來尚順（05年文卒）
単行本 189頁
アルファポリス 1,200円+税
20年9月30日発行

『いつも鏡を見てる』
矢貫隆（77年経営卒）
四六判 272頁
集英社 1,600円+税
20年12月4日発行

経営学部同窓会

「経営学部同窓会50年の歩み」の書籍とDVDの制作

昨年は皆さまと創設50周年をお祝いするイベント(USJパーティプラン)や祝賀会(ザ・リッツ・カールトン大阪)を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大により中止という苦渋の決断をしました。

そこで、コロナ禍でも出来る記念事業として、年史「経営学部同窓会50年の歩み」の書籍とDVDの制作に取り組みました。デジタル版は同窓会HPからご覧いただけます。コロナが収束して、「笑顔で再会できる場を、皆さまと共に作っていきたい」と切に願っています。

LINE　メーリングリスト登録画面

(会長 米田禎孝)

法学部同窓会

学生支援事業「好感の持てる見せ方・話し方」開催

コロナ禍の影響を受け、授業や就職活動でオンラインとリアル双方の対応を迫られている現役学生への支援事業として、12月5日と18日に、法学部の先生方及び教務課協力のもとBrush Up Production ANys代表の島津ゆう子氏を講師に迎え「好感の持てる見せ方・話し方」講座を開催しました。

参加した学生からは大変好評で更なる講座開催を希望する声がありました。次年度以降もオンラインとリアルを合わせた学生への直接支援事業を継続する予定です。　(会長 成松重人)

オンライン講座中の島津ゆう子氏

2020年度　初めての「オンライン全国支部長会」開催

10月31日、第34回全国支部長会がオンラインで開催されました。

各支部でも、前日までにZoomの接続確認なども積極的に行っていただいたおかげで、参加予定のほとんどの方がスムーズに出席してくださいました。

第1部は、赤松校友会長の挨拶に続き、入澤学長からコロナ禍に見舞われた今年の大学や学生の様子が伝えられ、学生たちへの校友会からの支援についてのお礼が述べられました。続いて、藤原副学長から大学の近況を報告いただきました。

その後、校友会の町田総務部会長、小濱事業部会長、米田広報部会長と龍Ron小町の飯沼会長から20年度の状況と、今後の取り組みに関する説明がされました。

第2部では、佐古田理事の司会、田中(友)理事の進行で、各支部長・事務局長などが参加し、オンラインでのワークショップが行われました。ワークショップでは、「校友会の次の20年を考える」をテーマとして、グループごとに討議され、全体会で、それぞれに報告されました。

その後、「SNSを使った情報発信」について、水嶋理事によるミニ講座が行われ、校友会の情報発信のひとつとしてSNSの利用の大切さが伝えられました。

今後の支部活動の新しい形式を取り入れるきっかけにもなる記念すべき初のオンライン開催は、その利点を活かして50名以上の参加をいただき、盛会のうちに無事終了しました。

クラブ・サークル周年事業

「創立記念降誕会実行委員会卒業生の会」発足

昔、同じ降誕会実行委員会で過ごした者たちの世代を超えた繋がりも大切と考え、今年創立記念降誕会が100回を迎えるのを機会に「創立記念降誕会実行委員会卒業生の会」発足の運びとなりました。

現在把握しているのは、64~68回(85~89年度)に参加された委員の方々ですが、全ての世代の委員の方々の参加をお待ちいたします。

今年度の活動は、コロナの影響もあり未定ですが、過去の降誕会の活動をイヤーブック作成委員会のご協力を得て動画に編集、逐次YouTubeにアップしていく予定です。

「龍谷大学降誕会」で動画検索できますので是非一度ご鑑賞ください。

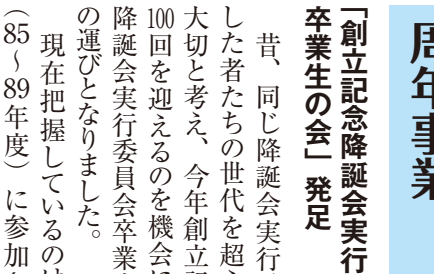
(世話人　89年経済卒　梶谷　優)

支部の活動(報告)

阪神支部　神戸モダン塾 IN KYOTO

11月3日、感染予防を万全に西本願寺龍虎殿に集合。飛雲閣、能舞台、白書院、虎渓の庭などを見学。社会部の方のユーモア溢れる解説に一同称賛の声。御影堂に参拝、聞法会館では密に配慮された席で松花堂弁当の小宴。その後、龍谷ミュージアムへ、埋もれた文化財の特集展「西七条えんま堂」とシリーズ展「仏教の2,500年の歩み」を時を忘れて鑑賞。外出ままならぬ日々、奥様同伴、友人を誘っての校友には和やかで人と人との絆を感じた晩秋の一日でした。

(支部長 渡部恵子)



パナソニックグループ支部(紫松会)
オンライン総会開催

2月6日、第36回総会・講演・懇親会をこの時世に合わせてZoomで開催しました。オンラインということで普段なかなかリアル参加できない遠方の方、新入会員3名、学生2名も含め21名が集いました。

池田理事の講演では今後のパナソニックに皆さんは興味津々。懇親会ではブレイクアウトルームに分かれ、好みの飲み物と共にいつも以上に中身の濃い懇談ができたと感じました。最後は自作ツールで恒例の大抽選大会!

早く皆さんとリアルで会えることを心待ちにして散会となりました。

(支部長　三島仁志)

東京支部　新春文化の集い

東京支部では、1月16日に、新春文化の集いを開催いたしました。緊急事態宣言が出てすぐに、年賀会を中止し、Zoom利用でのライブ落語配信に変更しました。

雷門音助さん

築地本願寺の協力のもと、雷門音助さん(10年経営卒)の江戸落語「干物箱」、桂優々さん(09年文卒)の上方落語「竹の水仙」の2題をお楽しみいただきました。世界中のみなさまに同時にお届けできることがわかったことは、収穫でした。

(支部長　大原延恵)

桂優々さん

最低限のスタッフで運営

2019年度　国際学部同窓会　決算
自2019年4月1日　至2020年3月31日

収入の部　(単位:千円)

款	項	科目	金額
1		校友会助成金	8,710
2		会費収入(事業収入含む・校友より受けた収入)	0
3		その他収入(含・預金利息)	0
4		積立金取崩	0
5		前年度繰越金	83,301
合計			92,011

支出の部

款	項	科目	金額
1		事業費	205
	1	広報費(資料印刷・発送費など)	205
	2	事業開催費(総会・講演料・イベント料・土産・記念品・懇親会などの費用)	0
2		運営費	2,200
	1	通信費(電話・郵便など)	0
	2	旅費交通費(出張費)	188
	3	会合費(役員会など)	172
	4	寄付・援助費(例:女子会などへの支払)	1,840
	5	雑費(慶弔・事務用品費・図書費・振込手数料)	0
3		積立金繰入	0
	1	積立金(周年事業など)	0
4		次年度繰越金	89,606
合計			92,011

貸借対照表
2020年3月31日　現在

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
預貯金	89,606	未払金(翌年度において支払われるが、今年度の費用)	0
普通預金	0	前受金(受取っているが次年度の会費収入など)	0
定期預金	0		
		小計	0
		積立金・剰余金の部	
		周年事業積立金	0
		次期繰越金	89,606
		小計	89,606
合計	89,606	合計	89,606

※龍谷大学校友会決算は
ホームページに掲載しています。

龍谷大学校友会女子会『龍Ron小町(ロンロン)』公式LINEができました。

14年に発足いたしました、龍Ron小町(卒業生の女子会)では、今後龍谷大学卒業生ならではの様々なイベントを開催していく予定です。

イベント情報などは、公式LINEで発信していきますので、右記QRコードからお友達登録をお願いいたします。

校友のお店

La pain JouJou

ラ・パン・ジュジュ

自家製天然酵母のパンとお菓子のお店

自家製天然酵母を使ったもっちりとしたパン

月替わりのカンパーニュも毎月のお楽しみ

藤山佐知子さん

自家製天然酵母のパンとお菓子 ラ・パン・ジュジュ La pain JouJou

「自家製天然酵母を使って国産小麦をじっくりと低温熟成発酵させ、富士山の溶岩石を炉床に使った石釜オーブンで焼き上げたパンは、外はパリッと、中はもっちりとして奥行きのある風味に焼きあがっています。」

藤山佐知子さん（95年経済卒）の作るパンは、「毎日食べるパンだから」との思いから、添加物は一切使わず、素材にこだわり、安心して食べられるヘルシーでおいしい優しい味わいです。遠方からのお客様も多く、完売することもあるそうです。

多彩なフレーバーの食パンも人気

果物や野菜などから起こした自然の酵母の気の向くままにゆっくり旨味を引き出します。生地に入れる塩は国産の海塩、トッピングにはドイツの岩塩、バターは九州高千穂のバター、オリーブオイルなども国産に限らず優れているものは積極的に使います。自家菜園で採れた無農薬野菜もたっぷり入っています。

ナッツをたっぷり巻き込んだフランスパン

おやつやお酒のおつまみになるパン、小さなサイズやいろんなフレーバーのパンなど、一日の中でパンを楽しんでもらえるようにと、店頭に並ぶパンは約40種類。新しいパンを考えるのも好きな藤山さんは、旅先で出会うドイツやスペインなどのパンからヒントを得ることもあるそうです。

また、上質な素材を活かした焼き菓子は、一つひとつ丁寧に焼き上げ、バターや卵の味がしみじみと感じられて「ほっこりできる」と人気です。

店名の「joujou」〔フランス語の「おもちゃ」＝jouet（小さな子供が使う言い方）〕のように、藤山さんの遊び心いっぱいのパンやお菓子をぜひ味わってみてください。

お店の外観

ラ・パン・ジュジュ｜La pain JouJou

〒739-0426 広島県廿日市市物見東1-7-24
JR前空駅から徒歩8分。車で広島駅、八丁堀から約35分。
TEL 0829-20-4338
営業時間　10時～17時（火～土）
定 休 日　日・月曜日、祝日、8月
※オンラインショップをご利用ください。
「パンと旅」のブログやパンに合うレシピも公開しています。
https://www.lapainjoujou.com/

ホームページ　インスタグラム

仏教に学ぶ

冬の時代を生き抜く智慧

長倉　伯博（ながくら　のりひろ）先生

53年鹿児島県生まれ。早稲田大学第一文学部東洋哲学科卒業後、龍谷大学大学院文学研究科真宗学修了。
鹿児島市の浄土真宗本願寺派善福寺住職。その他、浄土真宗本願寺派布教使、国立南九州病院の倫理・治験委員、鹿児島刑務所教誨師の活動の他に、龍谷大学短期大学部非常勤講師を経て、現在、国立滋賀医科大学、京都光華女子大学、鹿児島女子短期大学で非常勤講師を務める。仏教伝道協会 第47回仏教伝道文化賞沼田奨励賞受賞。約30年にわたるビハーラ活動を「医療や福祉と協力しながら苦である現実と向き合い、仏教を通してその苦を乗り越え人生の意義を見出す助けとなる活動」と評される。

梅一輪　一輪ほどの暖かさ

松尾芭蕉の弟子、服部嵐雪の作としてご存知の方も多いでしょう。実を言うと長い間、この句を誤解していました。専門の方にしてみれば笑止千万でしょうが、次第に暖かさを増すのどかな春を詠んだものと思い込んでいました。「一輪ほどの」を「一輪ごとの」と記憶していたせいかもしれません。ところが、まだまだ続く冬の最中、一輪だけ咲いた寒梅にふと目を止めてかすかな暖かさを感じるという冬の句だったのです。

未知のウイルスによるコロナ感染症禍で過ごしているこの一年余りを真冬にたとえるのは言い過ぎでしょうか。そして、「一輪」をどこに見出したら良いのか途方に暮れながらも、「一輪」をどこかに見出したいと願いながら日々を過ごしています。

コロナ禍の現在

しかし、この未知のウイルスの影響下、医療や経済の問題に直面している現場の痛切な声が、私の身近からも聞こえてきます。また、感染者の数や症状の重い患者数を中心に報道されています。もちろん、減少を目指す専門家の科学的見解は大切です。一方で、国内だけでも6,000人（2月10日現在）をはるかに超えた死者のことがどうしても気になるのです。どのような最期を迎えたのか、本人や家族の思いはどうだろうか。面会の人数や時間の制限があり、付き添いも困難な状態です。総体的に減少傾向に向かっているとしても、一度往ったかけがえのない命は帰ってこないという悲しみを癒す言葉を私は持ちません。死はまさに、誰にも訪れる説明不可能な「未知」の最たるものなのです。

滋賀医科大学での講義の様子

ベッドサイドで

ビハーラの学びを通して、特に医療と仏教の協働の可能性を求め、この30年必要に応じて医療チームに参加してきました。ただ現在は、感染症対策のため病棟に伺うことが困難な状況です。

ここで、コロナ以前に多くの患者さんからいただいた訴えのひとつを紹介します。

「死ぬってどういうことなの」厳しい問いです。「まだ死んだことがないからわからない。」と応じました。すると相手の方は吹き出すか悲しそうな顔をするかのどちらかです。そのうえで、「仏様の教えを心に抱いて、命を終えた方々にお会いしてきました。私はその後をついていくだけです。」

科学と宗教の立場を両立させるには、これ以外の話し方は私にはできないのです。

龍大での学び

あらためて振り返ると、恩師や学友から多くのことを学んでいたと今更ながら思います。

枚挙に暇はありませんが、今、大切にしている言葉を紹介します。

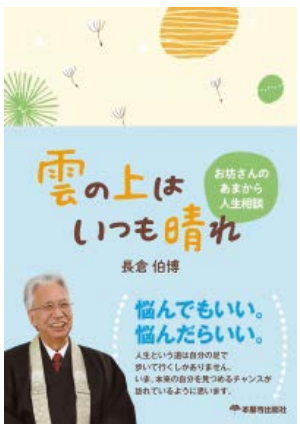
「変えられるものを変える勇気と、変えられないものを受け容れる心の穏やかさと、その両者を見きわめる智慧とがそなわりますように」

仏教ではないのですが、通じるものがあります。

天然痘やペストを克服してきた科学と、いのちそのものを見つめる宗教とを両立させる可能性がここにあります。

龍谷大学は、科学と宗教を対立ではなく協働する大切さを学ぶ総合大学なのです。

私はこれからも、その思いを胸に刻み、そして「一輪」を探しながら生きていこうと考えています。



本願寺出版社（20年7月発行）

今春定年退職される先生方

2021年3月31日

〈文学部〉
越前谷　宏　教授
深川　宣暢　教授
藤本　雅樹　教授

〈経営学部〉
李　洙任　教授

〈法学部〉
木下　秀雄　教授
西川　靖二　教授
福島　至　教授

〈先端理工学部〉
市川　陽一　教授

〈社会学部〉
安西　将也　教授

〈農学部〉
畑　信吾　教授
伏木　亨　教授
米森　敬三　教授

編集後記

前号で校友会報の発送方法についてアンケートを取りました。会報に関してのご意見を聞く良い機会にもなりました。紙媒体での希望者の多くから「毎回楽しみしています」。また、「年とともに郵便物が届く機会が減り、母校からの年2回の情報誌が届くことが嬉しいです」等々。さらに、編集部へのねぎらいのお言葉もいただきました。今までアンケートを取ったことが無く、毎回、これで本当に良いのか？を自問自答をしておりましたが、心待ちにしていただいている校友もたくさんおられることで、広報部員も勇気付けられました。ありがとうございます。

前号のアンケートを出し忘れている方も多くおられると思います。そのようなご友人がおられましたら、校友会ホームページ「お問い合わせ」からいつでも申し込めます。また、パソコンが苦手な方は1面記載の校友会事務局へ、郵送／電話／FAXなどで連絡するようにお伝えください。（米田）